

錦秋の白山、平瀬道を歩く

おまけは三方崩山

2008/10/12・13

I、Y、N(記)

岐阜県側の平瀬から入る「白山東面台地」、山スキーをする者には、おなじみの地名だが、私はまだ行ったことがない。シーズン中はゲートが閉まっていて、平瀬から大白川ダム間はスキーを担いで自転車で入らしい。私は、別当出合から入り、南竜ヶ馬場あたりで泊まり、翌日、頂上から東面台地に滑り降り、登り返したいと思っている。何れにしても一度、平瀬道を、歩いておきたかった。お互い静かな山行が好みだが、紅葉を愛でに二人を賑わう白山に誘う。今回は鍋の材料とアルコールをたっぷり車に積み込んだ。

10・11(土) 雨で心配した運動会も無事に終え、Y、Iを拾い東海北陸道に車を走らせた。道中、Mさんに電話をしたら「おじんの山行きかい」と冷やかされた。大白川ダムに予定通り21時前に着いた。早速、キャンプ場近くにテントを張り宴会。有り余る贅沢な夕食も時間切れとなり就寝。

10・12(日)朝、テントを残して車で登山口まで移動した。駐車場は紅葉の白山を目指す車で満杯だった。登山道も家族連れや熟年の夫婦、若者のグループと多彩。高度を上げるに従い、



展望が開けて紅葉が広がってきた。道中、そこここで撮影会が始まる。別山に続き、御前峰、剣ヶ峰の双耳峰、振り返れば、えぐられて荒々しい三方崩山が迫る。その奥にいつもの光景だが、北アルプスが連なる。だが、この見事な紅葉は長い山歩きでもそうそう、味わえるものではない。登山客みんなの顔がほころんでいる。最近、一眼レフを持ち歩かなくなりましたが、デジカメの一眼レフがほしくなった。冷やかされたが「おじんの山」も悪くないな。



室堂小屋に泊まった人が次々と降りてきた。昨夜は200人ほどの宿泊だったとか。子どもが幼いころに家族で泊まり、子どもたちを小屋に残して、妻と二人で山頂を踏んだ思い出がある。室堂から山頂まで人の列が続く。山頂もにぎわっていた。お池周りで周遊したが、急ぐのももったいないような光景だ。何度もカメラを取り出していると、Iが「10月のカレンダーがいっぱいできるなあ」と冷やかした。下山後、大白川の露天

風呂で汗を流す。キャンプ場に戻り、早々に酒盛り。ほろ酔い加減で夕暮れのキャンプ場に登ってみた。ブナやミズナラの紅葉しかけた大木が見事だった。ここに来るだけでも値打ちがある。例のあの人の顔を思い浮かべ、近ければ次の週末にでも出かけたかったと思った。

二人がテントに入った後、私は一人星空を眺めてコーヒーを沸かした。うれしい1日の締めくくりだった。

10・13(月)テントを畳んで、名滝の白水滝を眺めに行った。絶壁に紅葉が映え、朝日に虹ができ見事な滝だった。車で平瀬まで降り、三方崩山の登山口から歩く。ここもブナ



の林が見事だった。大峰のブナよりずっと太く立派だった。きのこも豊富だったが、食す自信がない。紅葉を愛でながら崩れかけた稜線を歩き、山頂を目指す。頂上から白山を垣間見た。おまけのつもりだったが三方崩山は、結構厳しかった。できるならここから白山につなげてみたいと思う。下山後は平瀬温泉に入り、荘川で新そばを喰って帰阪した。